

「望ましい富士登山の実現のための指標・水準」案

資料 1－3

望ましい富士登山の在り方		指 標	登 山 口	実 績										水 準 (2024年までの 目標値)	見直しの 要否	水 準 (2025年以降の 目標値)案	これまでに実施した取組 (※調査方法)
視 点	区 分			第一期					第二期								
				2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024				
17世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承	頂上付近で御来光を拝む場合には、途中の山小屋で宿泊・休憩していること	伝統的な登拝の登山形態と同様に、山小屋で休憩してから山頂で御来光を拝む登山者の割合	全 体	69.0%	68.2%	77.7%	82.0%	77.3%	-	80.9%	88.8%	87.6%	96.4%	80%以上	継続	80%以上	・山小屋で休憩して山頂を目指す啓発を含む動画による広報 ・弾丸登山の自粛や山小屋休息の推奨 ・弾丸登山禁止のチラシ・ポスターを作成、外国人登山者にも呼掛け ・【山梨県】条例制定、【静岡県】事前登録システム導入 (※モニタリング調査アンケート)
	特定された山麓の巡礼路・登山道からの登山が行われていること	古くからの巡礼路としてルートが特定されている吉田口登山道における山麓からの登山者の割合	吉 田	11.9%	13.7%	12.4%	11.7%	9.3%	-	5.6%	7.5%	9.6%	11.8%	15%以上	継続	15%以上	・山麓からの登拝啓発を含む動画による広報 ・馬返からの伝統的な登山の神聖さをPR ・中の茶屋(休憩所)のおもてなしを周知 (※吉田口五合目登山者数カウント)
	山麓の神社・霊地等と登山道とのつながりが認知・理解されていること	山麓の神社や湖などを巡ったのちに富士登山をする文化的伝統を知っている登山者の割合	全 体	32.9%	39.0%	47.0%	38.6%	43.1%	-	41.9%	42.5%	38.6%	38.7%	50%以上	継続	50%以上	・山麓や五合目施設等での神社・湖を巡る伝統的な巡拝の啓発を含む動画による広報 ・世界遺産巡りガイドマップ(日・英版)の配布 (※モニタリング調査アンケート)
		富士山に「神聖さ」を感じた登山者の割合	全 体	83.0%	88.2%	85.9%	82.2%	83.2%	-	88.3%	86.6%	88.2%	88.8%	90%以上	継続	90%以上	・飲食・ゴミのマナー啓発 ・御庭、奥庭、御中道の散策ガイドダンス促進 (※モニタリング調査アンケート)
登山道及び山頂付近の良好な展望景観の維持	山小屋・防災関連の施設等の登山者のための施設が自然と調和していること	自然と調和しない人工構造物による登山道沿いの景観阻害	全 体	なし	なし	なし	なし	なし	-	なし	なし	なし	なし	非調和的要素が予見又は発見されない	継続	非調和的要素が予見又は発見されない	・登山道、下山道の巡視と維持管理 ・富士山レンジャー等による啓発活動の実施 (※文化財・パトロール・レンジャーによる視認、文化財保護法等の現状変更申請)
	浸食・植生等の変化による展望景観への影響が抑制されていること	五合目以上における登山道の浸食や植生等の変化による展望景観の変化	全 体	なし	なし	なし	なし	なし	-	なし	なし	なし	なし	負の影響が予見又は確認されない	継続	負の影響が予見又は確認されない	・登下山道の巡視と維持管理 ・種子の防除マット設置 ・植生モニタリング調査 (※各登山口五合目から山体を観察)
登山の安全性・快適性の確保	登山装備・登山マナー等が理解されていること	登山道や山頂付近でゴミをよく見かけた登山者の割合	全 体	-	26.8%	19.6%	19.3%	22.4%	-	17.6%	14.0%	29.0%	20.4%	15%以下	継続	15%以下	・Twitter等による呼掛け ・安全誘導員や富士山レンジャー等の巡視強化 ・売店・山小屋の協力による注意喚起 ・お盆等の混雑日における外国人へ周知 (※モニタリング調査アンケート)
		登山者のマナーに不満を感じた山小屋等	全 体	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	見送		・山小屋に対しR6年度からアンケートを実施
		人的要因による文化財き損届の件数	全 体	1件	0件	2件	0件	0件	-	0件	0件	0件	0件	0件	継続	0件	・文化財・パトロール等による巡視 ・マナーガイド等での周知 (※五合目以上の、特別名勝・史跡富士山に係る文化財き損届)
	過剰な登山者数による混雑・危険・不満を感じない登山ができること	吉田口から登山し、誤って須走口に下山した人の割合(須走口五合目富士山ナビゲーター対応実績)	吉 田 須 走	0.72%	0.48%	0.54%	0.92%	0.61%	-	0.49%	0.43%	0.54%	0.68%	0.4%以下	継続	0.4%以下	・下山道分岐点で誘導員配置 ・音声ガイドの継続 ・ガイドダンス強化 (※須走口五合目ガイド対応者数)
				(981人)	(731人)	(928人)	(1,389人)	(936人)	-	(266人)	(404人)	(742人)	(780人)				
		山小屋やトイレなどの登山者への支援施設に不満を感じた登山者の割合	全 体	-	19.1%(トイレ)	19.3%(トイレ)	21.9%(山小屋)	21.4%(トイレ)		10.0%(トイレ)	12.6%(山小屋)	13.9%(トイレ)	13.5%(トイレ)	15%以下	両方の数値を指標とし継続	15%以下	保全協力金を利用したトイレの改善 (※モニタリング調査アンケート)
		夏山期間を通じて著しい混雑が発生する登山者数/日*を超えた日数 *吉 田 口:4,000人/ 日 富士宮口 :2,000人/ 日	吉 田	4日	4日	5日	6日	6日	-	0日	0日	0日	0日	-	3日以下	継続	3日以下
	富士宮	3日	2日	4日	-	3日	-	0日	0日	0日	0日		2日以下	継続	2日以下		